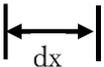
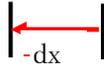


「2段階方式で学ぶ わかる電磁気学」初版、第1刷、正誤表

2021/12/22 現在

頁	行・見出番号	誤	正	掲載年月日
7	下から1行目	$= 3.6 \times 10^2 \text{ N}$	$= 1.8 \times 10^7 \text{ V/m}$	2017/1/14
10	上から2行目	誘電体 ϵ の媒質中に	誘電率 ϵ の媒質中に	2017/1/14
13	上から4行目	$V = \int_{\infty}^r [-1 \times E(x)] \times dx$	$V = \int_{\infty}^r [1 \times E(x)] \times (-dx)$	2017/1/14
13	上から5行目	(力を働かした方向に移動した距離)	(力に逆らって移動した距離)	2017/1/14
13	上から6行目		図 I.9 の $-F(x)$ と破線の矢印を削除	2017/1/14
13	上から6行目			2017/1/18
13	上から9行目	dx	$-dx$ (x の減少方向に dx)	2017/1/14
13	上から10行目	$-F(x) \times dx$	$F(x) \times (-dx)$	2017/1/14
14	上から1行目	$V = \int_{\infty}^a \left(-\frac{Q}{4\pi\epsilon x^2} \right) dx$	$V = \int_{\infty}^a \left(\frac{Q}{4\pi\epsilon x^2} \right) \times (-dx)$	2017/1/14
14	下から3行目	$V(r) = \int_{\infty}^r [-1 \times E(x)] \times dx$	$V(r) = \int_{\infty}^r [1 \times E(x)] \times (-dx)$	2017/1/14
15	下から3行目	$V(r) = \int_{\infty}^r [-1 \times E(x)] \times dx$	$V(r) = \int_{\infty}^r [1 \times E(x)] \times (-dx)$	2017/1/14
17	上から6行目	$V_{BA} = \int_a^b [-1 \times E(x)] \times dx$	$V_{BA} = \int_a^b [1 \times E(x)] \times (-dx)$	2017/1/14
18	下から5行目	$V_{BC} = \int_c^b [-1 \times E(x)] \times dx$	$V_{BC} = \int_c^b [1 \times E(x)] \times (-dx)$	2017/1/19
19	上から10行目	【例題 7.1】完全導体の表面に	【例題 7.1】平板状の完全導体表面に	2017/1/14
22	上から2行目	【例題 8.1】完全導体の	【例題 8.1】平板状の完全導体の	2017/1/14
22	下から2行目	$\frac{1}{4\pi\epsilon} \cdot \frac{Q}{(h^2 + x^2)^2}$	$\frac{1}{4\pi\epsilon} \cdot \frac{Q}{(h^2 + x^2)}$	2017/6/19

23	上から 1 行目	$\frac{1}{4\pi\epsilon} \cdot \frac{Q}{(h^2 + x^2)^2}$	$\frac{1}{4\pi\epsilon} \cdot \frac{Q}{(h^2 + x^2)}$	2017/6/19
23	上から 6 行目	$2 \frac{1}{4\pi\epsilon} \cdot \frac{Q}{(h^2 + x^2)^2} \cdot \frac{h}{\sqrt{(h^2 + x^2)}}$	$2 \frac{1}{4\pi\epsilon} \cdot \frac{Q}{(h^2 + x^2)} \cdot \frac{h}{\sqrt{(h^2 + x^2)}}$	2017/6/19
23	下から 10 行目	$\frac{\epsilon Q h}{2\pi\epsilon(h^2 + x^2)^{3/2}}$	$\frac{Q h}{2\pi(h^2 + x^2)^{3/2}}$	2017/1/14
23	下から 2 行目	$\frac{\epsilon Q h}{2\pi\epsilon(h^2 + x^2)^{3/2}}$	$\frac{Q h}{2\pi(h^2 + x^2)^{3/2}}$	2017/1/14
25	上から 11 行目	$V = \int_b^a [-1 \times E(x)] \times dx$	$V = \int_b^a [1 \times E(x)] \times (-dx)$	2017/1/19
26	上から 9 行目	$V = \int_b^a \left(-\frac{\lambda}{2\pi\epsilon r}\right) dr$	$V = \int_b^a \left(\frac{\lambda}{2\pi\epsilon r}\right) \times (-dr)$	2017/1/14
26	下から 1 行目	出ていく電気力線は	出ていく電気力線の数 N は	2017/1/14
27	上から 1 行目	$E(x)W + 0 \times W = E(x)W$	$N = E(x)W + 0 \times W = E(x)W$	2017/1/14
27	上から 2 行目	したがって、	ガウスの定理からの N と等しいから	2017/1/14
27	下から 6 行目	$V = \int_d^0 [-1 \times E(x)] \times dx$	$V = \int_d^0 [1 \times E(x)] \times (-dx)$	2017/1/14
31	下から 9 行目	1 秒後には断面 B に	1 秒後には断面 A から v [m]離れた断面 B に	2017/1/14
31	下から 3 行目	$qnSv$ [C]	$qnSv$ [A]	2017/1/14
32	上から 2 行目	導線から半径 r [m]の円上	導線を中心とした半径 r [m]の円上	2017/1/14
32	上から 3 行目	その円内を通過する	その導線に流れる	2017/1/14
34	上から 2 行目	1 m 当たり働く力 f [N]	1 m 当たり働く力 f [N/m]	2017/1/14
34	上から 4 行目	$f = IB \sin \theta$ [N]	$f = IB \sin \theta$ [N/m]	2017/1/14
35	下から 3 行目	$= \frac{\mu I_1 I_2}{2\pi r}$ [N]	$= \frac{\mu I_1 I_2}{2\pi r}$ [N/m]	2017/1/14
35	下から 1 行目	$f = \frac{\mu I_1 I_2}{2\pi r}$ [N]	$f = \frac{\mu I_1 I_2}{2\pi r}$ [N/m]	2017/1/14
36	下から 4 行目	働く力 F [N]	働く力 F [N/m]	2017/1/14
37	上から 1 行目	f_e	f_e [N]	2017/1/14
37	上から 4 行目	全電子が受ける力 f [N]	全電子が受ける力 f [N/m]	2017/1/14
37	上から 7 行目	働く力 F [N]	働く力 F [N/m]	2017/1/14
37	下から 10 行目	全電子が受ける力 F [N]	全電子が受ける力 F [N/m]	2017/1/14
37	下から 6 行目	$f = Nf_e = q\mu nSvH$ [N]	$f = Nf_e = q\mu nSvH$ [N/m]	2017/1/14

38	上から 3 行目	働く力 F [N]	働く力 F [N/m]	2017/1/14
38	上から 4 行目	$F = f = \mu(qnSv)H = \mu IH$ [N]	$F = f = \mu(nqSv)H$ $= \mu IH$ [N/m]	2017/1/19
39	下から 6 行目	$V_H = \int_D^0 (-vB)dx$	$V_H = \int_D^0 vB \times (-dx)$	2017/1/14
49	上から 5 行目	1 C の点電荷を引っ張る力	1 C の点電荷に働く力	2017/1/14
49	上から 6 行目	$V = \int_{\infty}^a [-1 \times E(r)] \times dr$	$= \int_{\infty}^a 1 \times E(r) \times (-dr)$	2017/1/14
49	下から 6 行目	力 \times (力の方向に移動した距離)	(1 C の点電荷に働く力) \times (働く力に逆らって移動した距離)	2017/1/14
49	下から 4 行目	dr は、電界の大きさが	dr は電界の大きさが	2017/1/14
56	下から 2 行目	すなわち、 F_1 と F_2 との合力になる。	(削除)	2015/4/14
61	上から 8 行目	$Q_B = \dots$	$Q_A = \dots$	2015/4/14
62	下から 11 行目	の向きと方向を読み出す...	の向きと大きさを読み出す...	2015/4/27
72	式(2.15)の 1 つ上の行	したがって、式(2.14)の両辺...	したがって、式(2.13)の両辺...	2017/7/4
83	図 2.23 のキャプション	リング状の電荷による電界	リング状の電荷による電界	2015/4/27
83	図 2.23 の図中にある左右 2 つの ds のうち、左側の ds	ds	ds'	2015/4/27
93	例題 4.1 の解答中、 $S =$ の式の第 3 式目	$\frac{(0.06 \times 10^{-3}) \times (2 \times 10^{-6})}{2.6 \times (8.9 \times 10^{-12})}$	$\frac{(0.06 \times 10^{-3}) \times (1 \times 10^{-6})}{2.6 \times (8.9 \times 10^{-12})}$	2016/5/27
106	上から 7 行目、式(5.3)の下	磁界 H 方向は電荷 m から...	磁界 H の方向は磁極 m から...	2017/7/3
133	上から 1 行目	... $S = (2 \text{ cm})^2 = \dots$... $S = 2 \times (1 \text{ cm})^2 = \dots$	2021/12/22
147	例題 9.1 の解答中の式(1)の最後部分	$-\frac{I_m}{\omega}(1 - \cos \omega t_0)$	$\frac{I_m}{\omega}(1 - \cos \omega t_0)$	2016/10/21
147	例題 9.1 の解答中の式(1)の下にある文中の式	$Q(t) = -\frac{I_m}{\omega}(1 - \cos \omega t)$	$Q(t) = \frac{I_m}{\omega}(1 - \cos \omega t)$	2016/10/21
147	例題 9.1 の解答中の式(2)の最後部分	$\therefore D = -\frac{I_m}{\pi r^2 \omega}(1 - \cos \omega t)$	$\therefore D = \frac{I_m}{\pi r^2 \omega}(1 - \cos \omega t)$	2016/10/21

153	例題 9.2 の問題文の最後に加筆	であるとき、電流密度 \mathbf{J} を求めよ。	であるとき、電流密度 \mathbf{J} を求めよ。ただし、 $r = \sqrt{x^2 + y^2}$ である。	2016/10/31
-----	-------------------	-------------------------------	---	------------